



「特集」

住居の3階に誕生したオーナー好みの空間

レベルの高い要望に応えながら、老後を想定した「趣味の空間」をつくる

上質のヒノキを使った空間に技が冴える

富山県小矢部市鴨島の森田邸は、鉄骨3階建ての建物で、1階が車庫と物置、2階部分が洋室の住居空間となっている。新築時には3階に部屋を作らず、2年後に内装工事をする事となった。「3階は、とにかく純和風で仕上げたい。木材はすべてヒノキを使いたい」ということから始まりました」と、森田さんは語る。

この家で暮らすのは、森田さんとご夫妻一人だけで、必要な住空間は2階にすべて揃っている。3階は、いわば趣味の空間。隅々にまで森田さんの好みと要望があり、間取りがなかなか決まらなかった。「将来、車椅子で暮らせるようにとの要望があり、廊下の幅にも気を遣いました。和室があるので、尺モジュールで設計しなければなりません」と、担当者は言う。30坪の空間に、17畳と8畳の和室、小さなキッチンとお風呂、トイレのあるプランとなった。

改装工事中もご夫妻は2階で暮らしているため、窓の外に足場を組み、窓の手すりを外し、そこから資材を運び込むことにした。まず、ご主人の希望のヒノキを準備しなければならぬ。「ヒノキについては吟味しました。大工さんにも見てもらい、『あかん、入れ替えや』というのもありました」。ヒノキにも善し悪しがある。大工は、大寺院の修復を手がけたこともある宮大工。合格した



17畳の和室(上)と格天井(左)。上質のヒノキを使い、特に柱には節のないものにこだわった。壁は、好きな緑の京土壁。



古代ヒノキのお風呂。ゆったり香りを楽しみながら入浴するという。「入る暇がなくて、まだあまり入ってませんけど(笑)」と森田さん。

ヒノキを施工するのにも、職人は手袋をして扱った。手の脂などが付くと、後から出てくるからだ。

広間の天井は格天井にしたという要望で、大工が時間をかけて作り上げた。

「確かに棧の二本本がきれいに面取りしてあって、大変だろうなと思いましたが」と、森田さん。随所に職人の技が冴える空間だ。

オーナーのこだわりをひとつひとつ叶える

お風呂は古代ヒノキで作りたいとのこと、取り扱っている埼玉の会社まで赴いた。交渉も難しかったが、特注生産で作った。

水回りは、2階とほぼ同じ位置関係になっていたが、多少違ったため、床下に配管をしなければならぬ。

「新築の場合なら浴槽を洗い場より下げて施工できますが、2階がもつできているので、床に穴をあけるわけにいかない。それで、風呂や脱衣室全体の床を上げたんです」と担当者。バリアフリーとはいかなくなるが、その点も設計の段階で話し合ったという。

また、暖房についても、エアコンだけでなくファンヒーターを入れたという要望が出た。しかし、ファンヒーターの排気はヒノキの部屋にダメージをもたらす。「排気を外に出さなければならぬ。しかも、建物はコンクリート。それで、3階の縁側の下をくぐらせて排気するようにしました」

さらに、広間の一角にはテレビを置く予定になっていたが、コーナーに置くとテレビの裏側がデッドスペースになってしまう。そこで、すっきり納めるため、和室

の角を台形にして、専用の棚を作った。「これは、私のこだわりで、後から設計変更でやってもらったんです」と森田さん。担当者は、「角を曲げると入隅とか難しく、大工さんはやりたがらないんですよ。テレビの現物もなかったんです。が、ぴったり来るようにしたいと思いました」

自分の世界を作り上げ、今後の人生を楽しむ

仕上げは、畳の刺繍である。森田さんのお好きな紅葉や鯉の刺繍を入れて欲しいという要望は、最初からあった。しかし、「ごでや」でもらえるかわからない。

「私が知っていたんですが、名古屋に軒だけある。それを担当者に探してもらったんです」と、森田さん。徹底してご自分の好みを反映させた見事な空間となった。

工事が始まったのが、春。完成までに、半年以上を要した。「長くかかりましたね。11月3日に秋祭りがあったんですが、それまでには仕上げてくれと言いました。何とか間に合わせてもらって、ごでやで内輪で祝いをしたんです」

担当者は、「最初は、2階に必要な部屋が揃っているのに、何でこの3階をつくるのがよくわからなかったところがありました。何度も話を聞いて、ようやくわかってきましたね」と言う。

森田さんは、現在65歳。お子さんたちもすでに独立されている。この3階は、お二人がこれからの人生を楽しむための空間なのだ。そのために、好きなものを追求し、廊下の一角にはご主人の趣味である絵を描く「オーナー」も設けられている。

「忙しくて、なかなかここに来られないですよ(笑)。でも、自分の思いが詰まっているせいか、ここに来れば落ち着きますね。担当の方には、ご自分の言い分を十分通していただいて、感謝しています」森田さんは物干しスペースに、奥さまのために電動で降りてくる竿も付けた。まだまだ忙しい森田さんご夫妻だが、いつか、この3階でゆつくりと過ごされる日々が来ることを願う。



広間の畳の刺繍。紅葉と鯉はお好みのモチーフ。



技のリフォーム

イワザ ミセマス

0120-183-304